

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【事業年度】	第84期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	高田機工株式会社
【英訳名】	TAKADAKIKO (Steel Construction) CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 寶角 正明
【本店の所在の場所】	大阪市浪速区難波中2丁目10番70号
【電話番号】	(06)6649-5100
【事務連絡者氏名】	経理部長 西尾 和彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市浪速区難波中2丁目10番70号
【電話番号】	(06)6649-5100
【事務連絡者氏名】	経理部長 西尾 和彦
【縦覧に供する場所】	高田機工株式会社東京本社 (東京都中央区日本橋大伝馬町3番2号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第80期 平成21年3月	第81期 平成22年3月	第82期 平成23年3月	第83期 平成24年3月	第84期 平成25年3月
完成工事高(千円)	18,167,219	-	-	-	-
経常利益(千円)	175,650	-	-	-	-
当期純損失(千円)	626,002	-	-	-	-
純資産額(千円)	14,628,539	-	-	-	-
総資産額(千円)	29,108,025	-	-	-	-
1株当たり純資産額(円)	663.15	-	-	-	-
1株当たり当期純損失金額 (円)	28.37	-	-	-	-
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	50.3	-	-	-	-
自己資本利益率(%)	4.1	-	-	-	-
株価収益率(倍)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	2,258,600	-	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	703,489	-	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	1,741,055	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残 高(千円)	2,592,811	-	-	-	-
従業員数(人)	293	-	-	-	-

(注) 1. 第81期より連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 完成工事高には消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第80期 平成21年3月	第81期 平成22年3月	第82期 平成23年3月	第83期 平成24年3月	第84期 平成25年3月
完成工事高(千円)	17,413,593	23,784,676	16,543,488	15,274,093	12,020,680
経常利益(千円)	157,880	1,193,401	853,000	585,414	27,125
当期純利益又は当期純損失 ( ) (千円)	642,956	1,048,289	742,695	619,067	38,491
持分法を適用した場合の投資 利益(千円)	-	-	-	-	-
資本金(千円)	5,178,712	5,178,712	5,178,712	5,178,712	5,178,712
発行済株式総数(千株)	22,375	22,375	22,375	22,375	22,375
純資産額(千円)	14,630,360	16,194,204	16,722,048	17,145,053	17,566,399
総資産額(千円)	29,079,808	26,448,714	24,508,403	25,277,804	22,791,151
1株当たり純資産額(円)	663.23	734.24	758.31	777.59	796.72
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	3.0 (1.5)	4.0 (1.5)	4.0 (2.0)	5.0 (2.0)	5.0 (2.0)
1株当たり当期純利益金額又 は1株当たり当期純損失金額 ( ) (円)	29.14	47.52	33.67	28.07	1.74
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	50.3	61.2	68.2	67.8	77.1
自己資本利益率(%)	4.3	6.8	4.5	3.7	0.2
株価収益率(倍)	-	3.81	6.35	8.01	116.28
配当性向(%)	-	8.4	11.9	17.8	286.4
営業活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	-	576,537	939,933	467,751	2,024,888
投資活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	-	741,122	55,161	270,724	299,672
財務活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	-	176,680	900,067	611,339	1,810,226
現金及び現金同等物の期末残 高(千円)	-	2,535,401	2,520,105	2,934,419	2,849,408
従業員数(人)	289	292	288	285	286

(注) 1. 完成工事高には消費税等は含まれておりません。

2. 第81期から第84期までの持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため記載しておりません。また、第80期は連結財務諸表を作成しているため、第80期の持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。

3. 第83期の1株当たり配当額には、創立80周年記念配当1円を含んでおります。

4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。

5. 第80期は連結財務諸表を作成しているため、キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。そのため、第80期の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー、現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

## 2【沿革】

大正10年6月	故高田三次郎が個人営業で土木用機械・工具の販売（大阪市北区中之島7丁目）及び鉄骨橋梁の製作（大阪市港区福町2丁目）を開始する
大正13年5月	法人組織に改組、商号を「合名会社高田兄弟商会」とする
昭和7年3月	製造部門を分離、大阪市港区福町2丁目に「株式会社高田鉄骨橋梁製作所」を設立
昭和10年11月	「合名会社高田兄弟商会」と「株式会社高田鉄骨橋梁製作所」を合併、社名を「高田商事株式会社」とし、本社を大阪市北区中之島6丁目におく
昭和13年5月	大阪市西成区津守町西6丁目に工場を移転（津守工場）、生産の拡充をはかる
昭和14年10月	社名を「高田機工株式会社」に変更
昭和17年6月	陸軍当局の要請により上陸用舟艇の製造を行い、後に陸・海軍の管理工場の指定をうける
昭和19年10月	本社を大阪市西成区津守町西6丁目に移転、東京出張所（現在東京本社）を開設
昭和24年4月	企業再建整備法に基づく整備計画認可
昭和24年9月	建設業法の施行にともない大阪府知事（い）第0011号として登録
昭和26年1月	建設大臣（イ）第2181号として登録
昭和28年4月	広島営業所を開設
昭和30年4月	福岡営業所を開設
昭和37年6月	大阪証券取引所市場第2部に上場
昭和39年3月	岸和田工場一期工事完成、操業開始
昭和41年7月	水門の営業活動開始
昭和43年3月	橋梁、鉄構の大型化に対処するため岸和田工場の設備増強
昭和45年4月	名古屋営業所を開設
昭和46年5月	生研トラスの営業活動開始
昭和47年10月	仙台営業所を開設
昭和49年12月	本社を大阪市浪速区敷津町2丁目（松川ビル）に移転
昭和51年1月	企業合理化の一環として岸和田工場に生産の集中化をはかる
平成5年3月	和歌山県海草郡下津町に和歌山工場を新設
平成5年4月	岸和田工場から和歌山工場へ全面移転
平成5年9月	大阪証券取引所市場第1部に指定
平成5年12月	東京証券取引所市場第1部に上場
平成8年10月	高田エンジニアリング株式会社を設立
平成9年2月	I S O 9001認証取得（J Q A - 1579）
平成9年4月	技術研究所を設立
平成9年4月	東京支店を改称し、東京本社を開設
平成9年7月	沖縄営業所を開設
平成9年8月	山口営業所を開設
平成14年4月	岐阜営業所を開設
平成14年7月	和歌山営業所を開設
平成15年10月	本社を大阪市浪速区難波中2丁目（パークスタワー）に移転
平成16年4月	静岡営業所を開設
平成17年12月	札幌営業所を開設
平成18年8月	横浜営業所を開設
平成19年1月	水門事業を廃業
平成19年3月	沖縄営業所・岐阜営業所を閉鎖
平成20年3月	横浜営業所を閉鎖
平成21年3月	高田エンジニアリング株式会社を解散
平成24年3月	山口事務所（旧山口営業所）を閉鎖

### 3【事業の内容】

当社は、橋梁、鉄骨及びその他鋼構造物の設計から製作、現場施工を主な事業としております。  
当社の事業の詳細は次のとおりであり、セグメントの区分と同一であります。

#### (1) 橋梁事業

新設鋼橋の設計・製作・現場据付、既設橋梁維持補修工事の設計・製作・現場据付、橋梁関連鋼構造物の設計・製作・現場据付、複合構造物の設計・製作・現場据付、土木及び海洋関連鋼構造物の製作をしております。

#### (2) 鉄構事業

超高層ビル鉄骨等の製作・現場施工、大空間構造物の設計・製作・現場施工、制震部材の製作をしております。

### 4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

### 5【従業員の状況】

#### (1) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与
286人	44才5ヶ月	17年0ヶ月	5,658,162円

セグメントの名称	従業員数(人)
橋梁事業	224
鉄構事業	40
報告セグメント計	264
全社(共通)	22
合計	286

(注) 1. 従業員数は就業人員数であります。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

#### (2) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は、産業別労働組合JAMに加入しております。

組合員は課長代理以上を除く従業員で構成され、平成25年3月31日現在における組合員総数は137名であり、労使関係は平穩に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、震災復興需要等により緩やかな回復傾向が見られました。また、平成24年12月の政権交代以降は、経済政策等への期待感から景気回復に向けて一部に明るい兆しが見えつつあります。

当業界におきましては、橋梁事業は新政権発足後、平成24年度補正予算による追加発注の実施に期待が高まりましたが、年間の発注量は全盛期の3分の1程度に落ち込んだままにとどまりました。さらに、発注物件1件当たりの大型化、受注が特定の数社に偏重する傾向等、受注を巡る環境の変化は大きく、受注量の確保が容易でない状況が続きました。鉄構事業におきましても、新政権発足以降景況感は明るくなったものの、需要は首都圏に集中し、超高層ビル案件は耐震性強化を含む設計の見直し等により着工は遅れたままで、発注量の不足から過当競争となり価格下落が避けられない状態で推移いたしました。

このような状況のもとで、当社は「安定的な経営基盤確立」を目指し「採算重視の受注」を最優先課題として、会社の総力を挙げて取り組んでまいりました。

橋梁事業では、技術提案力を強化し積極的な受注活動を展開することで、年度前半は一定量の受注を確保することができましたが、年度後半での受注が低調に推移したため、当期の受注高はかろうじて前期の数字を上回るにとどまりました。

鉄構事業では、少ない発注量の中で「採算重視の受注」を目指したことで、当期の受注高は、低調であった前期の数字を上回ったものの、目標とする受注量を大きく下回る結果となりました。

これらの結果、当事業年度の業績につきましては、売上が12,020,680千円（前年同期比21.3%減）、営業損失89,268千円（前年同期は517,526千円の営業利益）、経常利益27,125千円（前年同期比95.4%減）、当期純利益38,491千円（前年同期比93.8%減）と各利益とも前年同期から大きく減少する結果となりました。

受注状況につきましては、当事業年度の受注高は11,660,185千円（前年同期比13.1%増）、当事業年度末の受注残高は11,616,680千円（前年同期比3.0%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 橋梁事業

橋梁事業における当事業年度の売上高は9,494,310千円（前年同期比10.7%減）、セグメント利益は552,864千円（前年同期比41.1%減）となりました。また、受注高は8,568,118千円（前年同期比1.0%増）となり、当事業年度末の受注残高は8,082,980千円（前年同期比10.3%減）となりました。

#### 鉄構事業

鉄構事業における当事業年度の売上高は2,526,369千円（前年同期比45.6%減）、セグメント損失は642,132千円（前年同期はセグメント損失421,225千円）となりました。また、受注高は3,092,066千円（前年同期比69.4%増）となり、当事業年度末の受注残高は3,533,700千円（前年同期比19.1%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末より85,010千円減少し、2,849,408千円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は2,024,888千円（前年同期は467,751千円の使用）となりました。これは主に増加要因としての受取手形・完成工事未収入金の減少が、減少要因としての支払手形・工事未払金の減少を上回ったためであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は299,672千円（前年同期は270,724千円の獲得）となりました。これは主に投資有価証券の売却及び償還による収入を、投資有価証券の取得による支出と有形固定資産の取得による支出が上回ったためであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1,810,226千円（前年同期は611,339千円の獲得）となりました。これは主に短期借入金の返済と配当金の支払いによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当事業年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比(%)
橋梁事業(千円)	8,760,406	17.1
鉄構事業(千円)	2,120,286	55.5
合計(千円)	10,880,693	29.0

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当事業年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高	前年同期比(%)	受注残高	前年同期比(%)
橋梁事業(千円)	8,568,118	+1.0	8,082,980	10.3
鉄構事業(千円)	3,092,066	+69.4	3,533,700	+19.1
合計(千円)	11,660,185	+13.1	11,616,680	3.0

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当事業年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比(%)
橋梁事業(千円)	9,494,310	10.7
鉄構事業(千円)	2,526,369	45.6
合計(千円)	12,020,680	21.3

(注) 1. 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
国土交通省	3,793,855	24.8	3,781,166	31.5
中日本高速道路(株)	-	-	1,746,545	14.5
(株)大林組	2,074,050	13.6	-	-

2. 前事業年度の中日本高速道路(株)及び当事業年度の(株)大林組については、売上高に占める割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

平成25年3月期の受注が低調に推移したため、平成26年3月期の業績は厳しい結果が予想されますが、平成26年3月期は安倍政権の経済政策、いわゆる「アベノミクス」の実施により橋梁事業・鉄構事業とも久しぶりに発注量の増加が期待できる環境となります。そのため当社は新たな経営体制のもとで受注拡大のための対策を充実させることを最優先課題とし「採算を意識した受注の確保」を徹底してまいります。発注量の増加が期待できる環境の下、一定量の受注を確保することで今後の業績の改善を図り、さらに充実した株主還元を実施できるよう努めてまいります。

橋梁事業におきましては、良質な社会資本の提供を経営の基本としている企業として、発注量の増加が見込まれる復興・防災対策工事には特に積極的に入札対応を行い、東日本大震災からの復興・大規模災害の未然防止に貢献できるよう事業を展開してまいります。

鉄構事業におきましても、遅れていた大型再開発事業が本格的に始動することで、当社が得意とする超高層ビル案件の発注も増加し、その結果「採算を意識した受注」の可能性は高くなると予想しております。

また、橋梁事業・鉄構事業で永年培われた技術を、耐震・防災対策関連事業に展開すべく研究を継続中であります。平成25年3月期での売上高は少額でありましたが、当社のシェイプアップブレースBr等、耐震・制震デバイスの需要は拡大しつつあります。中長期的には当社の新しい事業の柱となるよう積極的に研究開発を推し進めてまいります。

平成26年3月期以降は受注量の拡大が期待できる環境となるため、今後も橋梁事業・鉄構事業を経営の柱とし、早期に「安定的な経営基盤確立」を完了させる一方で新しい事業の柱を開拓し「災害に強い鋼構造物」を提供できる企業として事業を展開してまいります。

#### 株式会社の支配に関する基本方針について

##### 会社の支配に関する基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者であるべきと考えております。

そして、当社の企業価値及び株主共同の利益を最大化していくためには、中長期的な観点から、当社の企業価値を生み出す源泉を育て、強化していくことがもっとも重要であって、当社の財務及び事業の方針は、このような認識を基礎として決定される必要があるものと考えております。

##### 当社を取り巻く経営環境と今後の取り組み

当社の主力事業である橋梁事業を取り巻く環境は、国及び地方自治体の厳しい財政状況に加え公共事業費の削減などにより、鋼橋の総発注量が全盛期の3分の1程度まで落ち込んだ状況が続く中で、発注物件1件当たりの大型化と受注が特定の数社に偏重する等の受注環境の変化もあり、受注量の確保が容易でない状況が続いております。ただ、昨年末の安倍政権発足による「機動的な財政政策」の実施により、本年度後半には久しぶりに公共事業の拡大が期待できる環境にあります。一方、鉄構事業を取り巻く環境は、需要は首都圏に集中し、超高層ビル案件は耐震性強化を含む設計の見直し等により着工は遅れたままで、発注量の不足から過当競争となり価格下落が避けられない状況が続いております。ただ、新政権の経済政策の下で国内民間設備投資の回復が期待され、首都圏・中部圏で遅れていた大型再開発事業が本格的に動き始めます。しかしながら今後1年間に発注される鉄骨案件は、ゼネコンの低価格受注が目立った時期の案件であり、価格的には厳しい状況が続くと思われれます。

このような状況のもと、橋梁事業では、総合評価落札方式による入札対応を専門に行う「技術提案室」を中心に、常に客先ニーズを的確に把握し高い技術点評価の獲得を目指すとともに、和歌山工場が保有する大型岸壁や自動化された大型設備の優位性を最大限活用できるよう、「採算を意識した受注の確保」を行ってまいります。また、発注量の増加が見込まれる復興・防災対策工事に積極的に入札対応を行うと共に、今後の成長に繋がる耐震・防災対策関連事業を展開すべく研究開発を推し進めてまいります。一方、鉄構事業では、当社が得意とする超高層ビル案件の発注の増加が見込まれる中、主要受注先である大手建設会社との関係強化をさらに深めるとともに、積極的に適切なVE提案を行うことで、受注量確保と利益率向上を目指します。

平成25年度は、平成26年3月期までを「安定的な経営基盤確立」の期間と位置づけている第3次中期経営計画の最終年度であり、年度方針を「受注および利益目標の達成」、「継続的な安全・品質の確保」、「危機意識に基づく行動」及び「鋼構造物関連事業の推進」と定め、強化された利益体質を十分に活かし、安定的な業績を継続するために、受注及び利益目標の達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。



会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針が支配されることを防止するための取り組み

当社は、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みとして、平成25年6月26日開催の第84期定時株主総会において、有効期間を平成26年6月に開催される当社定時株主総会の終結の時までとする平時における「当社株式の大規模買付行為への対応方針（買収防衛策）」（以下「本プラン」といいます。）を承認いただき導入しております。

本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社役員の地位の維持を目的とするものでないことについて

本プランは、基本方針の考え方並びに平成17年5月27日に法務省及び経済産業省から公表された「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」、平成20年6月30日付の企業価値研究会報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」及び東京証券取引所の適時開示規則に沿って設計され、これにより、当社株主及び投資家の皆様は適切な投資判断を行うことができますので、本プランが当社の企業価値・株主共同の利益を損なうものではなく、むしろその利益に資するものであると考えます。

また、本プランは、不適切な大規模買付行為に対して、当社取締役会が対抗措置を発動する場合を事前かつ詳細に開示しており、当社取締役会による対抗措置の発動は本プランの規定に従って行われます。さらに、大規模買付行為に関して当社取締役会が評価、検討、代替案の提示、大規模買付者との交渉または対抗措置の発動を行う際には、外部の専門家等からの助言を得るとともに、当社経営陣から独立した外部の有識者と社外監査役から構成される独立委員会の意見を最大限尊重するものとし、独立委員会は、当社取締役の利益をはかることを目的とした助言・勧告を行ってはならないこととしております。このように本プランには、当社取締役会による適正な運用を担保するための手続きも盛り込まれています。

以上から、本プランが当社役員の地位の維持を目的とするものではないことは明らかであると考えております。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

##### (1) 公共事業への依存について

当社は、鋼構造物の設計から製作、現場施行を主事業としており、平成25年3月期末の受注残高においては鋼橋が約7割を占め、その大部分は公共工事であります。国及び地方公共団体の厳しい財政状態を反映し、公共事業は発注量の減少が続ぎ、今後の市場動向は不透明であります。そのため、実際の発注量と金額が予測と大幅に乖離する可能性は否定できず、その場合には、当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 主要原材料の価格変動等について

当社の主力事業である鋼構造物事業は、鋼材が主要原材料であります。鋼材価格はここ数年値動きが大きく、今後鋼材価格が上昇を続け、上昇分が受注価格に転嫁されない場合は当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

また、鋼材の需給関係が逼迫し、数量の確保が困難になる可能性は否定できません。鋼材の納入が遅延した場合や、必要数量を確保できない場合は当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 自然災害・事故等による影響について

当社は、生産設備を和歌山工場に集中し、業務の効率化を図っております。そのため自然災害等で和歌山工場の機能がストップした場合には、当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

また、当社の製品は非常に大きく重く、工場製作・輸送・現場施工の各工程に危険な作業を含んでおります。安全を最優先に業務を進めておりますが、万一事故を起こした場合は、事故による損害だけでなく、顧客の信頼を失墜し、業績に大きな影響を与える可能性があります。

##### (4) 金利変動による影響について

将来の金利上昇は当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 時価変動による影響について

当社が保有する資産の時価の変動によっては、業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

特に記載すべき事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社では、急変する事業環境に対応していくため、橋梁事業につきましては技術研究所の開発スタッフ及び設計部の担当者を中心として研究開発に取り組んでおります。鉄構事業につきましては鉄構本部の担当者を中心に実工事に対応しながら研究開発に取り組んでおります。

当事業年度における各セグメント別の主たる研究の目的、主要課題、研究成果及び研究開発費は以下のとおりであり、研究開発費の総額は45,547千円であります。

### (1) 橋梁事業

#### 耐震に関する技術開発

東日本大震災により、あらためて耐震補強の必要性が高まりました。当社ではすでに以下の耐震に関する技術開発に取り組んでおりますが、今後さらに研究を進めてまいります。

#### イ．シェイプアップブレースBr

アーチ橋やトラス橋の座屈拘束ブレース（製品名：シェイプアップブレースBr）の販売を前事業年度より開始し、実工事で適用されています。シェイプアップブレースは大成建設株式会社が開発した座屈拘束ブレースで、耐震・制震用ダンパーとして建築構造物では数多くの実績があり、市場から高い評価を受けている製品です。シェイプアップブレースBrは、大成建設株式会社と当社がこれまでの経験をもとに、屋外での長期防錆能力を高めた鋼橋用製品として開発したものです。

#### ロ．S B B R最大変位計

座屈拘束ブレースを用いたアーチ橋やトラス橋等では、座屈拘束ブレースの変位量を確認することで、大規模地震後の橋梁の安全性を推定することが出来ます。S B B R最大変位計は、無電源のシンプルな動作原理により、座屈拘束ブレースの最大変位量を記録、保持します。また、視認性に優れているため遠方より目視で座屈拘束ブレースの変位量が許容範囲であるかを判定することが出来ます。今後は、シェイプアップブレースBrと合わせて、更なる適用範囲の拡大に向けて研究してまいります。

#### ハ．せん断パネル型制震ストッパー

橋梁の耐震技術として、従来の反力分散構造や免震構造における問題を解消し、かつ経済的な制震ダンパー（製品名：制震ストッパー）を販売しております。既に、桁橋だけでなくアーチ橋、方杖ラーメン橋、P C橋への適用も含め200基以上が実工事で採用され、その他多くの引き合いをいただいております。今後は、更なる適用範囲の拡大に向けて研究してまいります。

#### ニ．すペリッチ

既設支承の中には、大地震時の耐力は満足しないものの、常時の機能には全く問題ない支承が数多く存在しています。当社では既設支承を取替えず、固定支承を地震時のみ可動支承に改造することが可能な、支承可動化工法を開発いたしました。前事業年度より支承改造用の製品（製品名：すペリッチ）の販売を開始し、実工事で適用されています。当事業年度はP C橋への適用構造を開発しました。今後はP C橋への適用実績を目指してまいります。

#### ホ．ノックオフボルト

設計耐力で確実に破断するボルトを開発しました。建築・土木等の耐力コントロール用として適用可能です。橋梁では、レベル1地震動まで固定、レベル2地震動で破断するボルトとして、ノックオフ構造に適用します。今後は、更なる適用範囲の拡大に向けて研究してまいります。

#### 鋼橋の製作技術及び品質検査技術の開発

イ．効率のかつ一定の品質水準を保持した鋼橋製作を目指し、有効な技術・技能伝承及び教育に関する資料を作成し、積極的に社内でも共有化しております。また、大学機関と共同研究を行い、従来、経験データで対処していた溶接工程及び加熱を伴う鋼板の変形抑止、制御について数値解析を行っています。これにより、勘と経験に依存していたノウハウから、解析に裏付けされた手順・加工方法へ統合化することにより、更に一定の品質水準を保つ製品の生産が可能であると考えております。

- ロ．製品の品質保証として、デジタル計測機器による最新の溶接部非破壊検査、溶接部形状の詳細測定、鋼床版U  
リブ溶接溶け込み量の測定を実工事で実施することを計画しております。これらは既に計測精度等を確認し、  
実適用可能であることを検証しております。業界において、秀逸な検査技術を率先して適用すべく、準備を進め  
ております。
- ハ．橋梁のRC床版、PC床版に対して、そのコンクリートの品質を最新の非破壊試験法にて検証する取り組み  
を行っております。調査・実験研究の結果、有効かつ相応な欠陥検出精度を有する非破壊検査方法を見出すこ  
とができ、研究論文とし発表しております。一方、鋼板部材とコンクリート部材を有する合成床版に対する完成  
後品質検査として、非破壊検査法開発を進めており、前者と併せて、現場架設時における種々のコンクリート構  
造物の品質保証を行うことを目指しております。
- ニ．技術研究所内の載荷実験装置として、業界でも有数であるサーボ制御方式1000kNアクチュエータを保有して  
おります。前述のシェイプアッププレスBr、すべリッチ及びノックオフボルト開発実験時に、本アクチュエー  
タにより有効な実験データを取得しております。今後も、稼働ノウハウを駆使することにより、各種載荷実験に  
適用し、迅速な開発データが得られるよう活用していきます。

## (2) 鉄構事業

### 建築鉄骨の製作に関する技術開発

#### イ．溶接組立箱型断面柱に関する技術開発

超高層ビルの鉄骨造における溶接組立箱型断面柱（通称：ビルドボックス）は、近年、需要を減らすことな  
く一部極厚化の傾向にあり、その材質も高強度かつ高品質を確保するというこれまでにない高い性能が求めら  
れてきています。この要求に対して、靱性と溶接性を高めるなど改良された鋼材・溶材を用いるとともに、溶接  
方法・条件について適切な組合せを選択し、施工試験及び工事実績を蓄積する事で、営業活動に有利になる技  
術の開発に取り組んでまいります。

#### ロ．多機能・可搬型多層盛溶接ロボットの導入、運用

当社はSプレート認定工場であり、あらゆる鋼構造物の製作が対象となり、高い溶接品質の確保が責務であ  
ります。軽量かつ操作性の良い可搬型多層盛溶接ロボットの導入を今後進め、高品質かつ高効率なガスシール  
ドアーク溶接による、長尺厚板の多層盛溶接方法の確立に取り組んでまいります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たり使用した重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1. 財務諸表等 重要な会計方針」に記載しております。

### (2) 当事業年度の経営成績の分析

当事業年度の売上高は12,020,680千円（前年同期比21.3%減）と減少し、営業損失89,268千円（前年同期は517,526千円の営業利益）、経常利益27,125千円（前年同期比95.4%減）、当期純利益38,491千円（前年同期比93.8%減）と各利益とも前年同期から大きく減少する結果となりました。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

橋梁事業におきましては、安倍政権の経済政策のひとつである「機動的な財政政策」の実施により、久しぶりに公共事業の拡大が期待できる環境にあります。しかしながら発注者側が保有する設計ストックには限りがあり、発注が本格化するのにはまだ少し時間が必要で、実施は年度の後半からになるものと予想されます。

鉄構事業におきましても、安倍政権の経済政策の下で国内民間設備投資の回復が期待されます。また首都圏・中部圏では、遅れていた大型再開発事業が本格的に動き始めます。しかしながら今後1年間に発注される鉄骨案件は、ゼネコンの低価格受注が目立った時期の案件であり、価格的には厳しい状況が続くと思われま

### (4) 経営戦略の現状と見通し

平成25年3月期の受注が低調に推移したため、平成26年3月期の業績は厳しい結果が予想されますが、平成26年3月期は安倍政権の経済政策、いわゆる「アベノミクス」の実施により橋梁事業・鉄構事業とも久しぶりに発注量の増加が期待できる環境となります。そのため当社は新たな経営体制のもとで受注拡大のための対策を充実させることを最優先課題とし「採算を意識した受注の確保」を徹底してまいります。発注量の増加が期待できる環境の下、一定量の受注を確保することで今後の業績の改善を図り、さらに充実した株主還元を実施できるよう努めてまいります。

橋梁事業におきましては、良質な社会資本の提供を経営の基本としている企業として、発注量の増加が見込まれる「復興・防災対策」工事には特に積極的に入札対応を行い、東日本大震災からの復興・大規模災害の未然防止に貢献できるよう事業を展開してまいります。

鉄構事業におきましても、遅れていた大型再開発事業が本格的に始動することで、当社が得意とする超高層ビル案件の発注も増加し、その結果「採算を意識した受注」の可能性は高くなると予想しております。

また、橋梁事業・鉄構事業で永年培われた技術を、耐震・防災対策関連事業に展開すべく研究を継続中であります。平成25年3月期での売上高は少額でありましたが、当社のシェイプアップブレースBr等、耐震・制震デバイスの需要は拡大しつつあります。中長期的には当社の新しい事業の柱となるよう積極的に研究開発を推し進めてまいります。

平成26年3月期以降は受注量の拡大が期待できる環境となるため、今後も橋梁事業・鉄構事業を経営の柱とし、早期に「安定的な経営基盤確立」を完了させる一方で新しい事業の柱を開拓し「災害に強い鋼構造物」を提供できる企業として事業を展開してまいります。

### (5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは2,024,888千円の獲得（前年同期は467,751千円の使用）となりました。これは主に増加要因としての受取手形・完成工事未収入金の減少が、減少要因としての支払手形・工事未払金の減少を上回ったためであります。投資活動によるキャッシュ・フローでは299,672千円の使用（前年同期は270,724千円の獲得）となりました。これは主に投資有価証券の売却及び償還による収入を、投資有価証券の取得による支出と有形固定資産の取得による支出が上回ったからであります。財務活動によるキャッシュ・フローでは1,810,226千円の使用（前年同期は611,339千円の獲得）となりました。これは主に短期借入金の返済と配当金の支払いによるものであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

特記すべき事項はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

平成25年3月31日現在

事業所 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
			建物・ 構築物 (千円)	機械・ 運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)		合計 (千円)
和歌山工場 (和歌山県 海南市下津町)	橋梁事業 鉄構事業	鋼構造物 生産設備	959,301	392,337	5,280,610 (258,463)	33,644	6,665,894	146
本社 (大阪市浪速区)	橋梁事業 鉄構事業	統括業務 施設	2,515	268	- (-)	7,485	10,269	112
東京本社 (東京都中央区)	橋梁事業 鉄構事業	販売設備	1,427	-	- (-)	1,174	2,601	18

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

特記すべき事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	65,600,000
計	65,600,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,375,865	22,375,865	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式 単元株式数1,000株
計	22,375,865	22,375,865	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円) (注)	資本準備金残 高(千円)
平成12年3月31日	265,000	22,375,865	-	5,178,712	118,547	4,608,706

(注) 自己株式の消却のための資本準備金の減少(平成11年4月～平成12年3月)

#### (6)【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 1,000株)							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	29	35	68	29	2	2,288	2,451	-
所有株式数(単元)	-	5,435	838	7,112	444	8	8,418	22,255	120,865
所有株式数の割合 (%)	-	24.42	3.77	31.96	1.99	0.04	37.82	100	-

(注) 1. 自己株式327,578株は「個人その他」に327単元、「単元未満株式の状況」に578株含まれております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	1,336	5.97
新日鐵住金株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目6番1号	1,000	4.47
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目2-3	915	4.09
株式会社奥村組	大阪市阿倍野区松崎町2丁目2-2	888	3.97
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	東京都中央区日本橋1丁目4-1	810	3.62
前尾和男	和歌山県紀の川市	779	3.48
株式会社紀陽銀行	和歌山県和歌山市本町1丁目35番地	586	2.62
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	502	2.25
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	502	2.24
株式会社川金コアテック	埼玉県川口市川口2丁目2-7	500	2.23
計	-	7,818	34.94

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 327,000	-	単元株式数1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,928,000	21,928	同上
単元未満株式	普通株式 120,865	-	-
発行済株式総数	22,375,865	-	-
総株主の議決権	-	21,928	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
高田機工株式会社	大阪市浪速区難波中 2丁目10番70号	327,000	-	327,000	1.46
計	-	327,000	-	327,000	1.46

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

( 1 ) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 2 ) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,335	217
当期間における取得自己株式	512	108

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

( 4 ) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡し)	730	320	-	-
保有自己株式数	327,578	-	328,090	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。



### 3【配当政策】

利益配分につきましては、企業体質の強化を図り経営環境の変化にも対応できる内部留保を充実させること、株主の皆様へ安定的な配当を継続的にお届けすることを基本方針とし、業績の推移及び事業展開を勘案して機動的に実施してまいります。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

期末の配当につきましては、1株当たり3円とし、中間配当と合わせた年間配当は1株当たり5円とさせていただきます。

内部留保金につきましては、品質安定のための設備投資や資本参加も視野に入れた事業展開に有効に活用し、長期にわたり堅実な経営基盤の強化を図ってまいります。

当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年11月2日 取締役会決議	44,095	2.0
平成25年6月26日 定時株主総会決議	66,144	3.0

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第80期 平成21年3月	第81期 平成22年3月	第82期 平成23年3月	第83期 平成24年3月	第84期 平成25年3月
最高(円)	273	280	298	310	237
最低(円)	102	122	140	155	145

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	163	163	219	237	212	214
最低(円)	149	145	165	199	187	199

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	総合評価担当 内部統制担当	竇角 正明	昭和21年1月1日生	昭和44年4月 当社入社 平成8年4月 技術本部設計部長 平成13年6月 取締役技術本部長兼設計部長 平成17年6月 取締役常務執行役員生産部門管 掌兼工事本部長 平成18年6月 取締役常務執行役員生産部門管 掌兼工事本部長兼安全担当 平成19年4月 常務取締役執行役員生産部門管 掌兼工事本部長兼安全担当 平成19年6月 専務取締役執行役員生産部門管 掌兼工事本部長兼安全担当 平成20年4月 取締役社長 平成20年10月 取締役社長技術提案担当 平成21年6月 取締役社長総合評価担当 平成22年6月 取締役社長総合評価担当・内部 統制担当(現)	(注)2	45
専務取締役	執行役員 鉄構本部長	谷 俊寛	昭和25年10月2日生	昭和53年10月 当社入社 平成15年4月 和歌山工場橋梁製造部長 平成16年6月 和歌山工場長代行 平成17年6月 執行役員和歌山工場長 平成19年6月 取締役執行役員和歌山工場長 平成22年6月 常務取締役執行役員和歌山工場 長 平成25年6月 専務取締役執行役員鉄構本部長 (現)	(注)2	26
常務取締役	執行役員 営業本部長	嶋崎 哲太	昭和25年3月27日生	昭和48年4月 当社入社 平成16年4月 西部営業本部営業部長 平成17年5月 東部営業本部営業部長 平成18年6月 執行役員営業本部長 平成19年6月 取締役執行役員営業本部長 平成25年6月 常務取締役執行役員営業本部長 (現)	(注)2	18
取締役	執行役員 管理本部長 兼コンプライ アンス室長	梶 義明	昭和26年11月10日生	昭和50年4月 ㈱住友銀行(現㈱三井住友銀 行)入行 平成15年3月 当社入社 平成16年4月 管理本部総務部長 平成20年4月 執行役員管理本部長代理兼総務 部長兼コンプライアンス室長 平成21年6月 取締役執行役員管理本部長兼コ ンプライアンス室長(現)	(注)2	15
取締役	執行役員 和歌山工場長	高橋 裕	昭和27年3月19日生	昭和49年3月 当社入社 平成15年4月 東部営業本部東京設計部長 平成18年4月 和歌山工場橋梁製造部長 平成21年4月 執行役員和歌山工場長代理兼橋 梁製造部長 平成22年6月 取締役執行役員和歌山工場長代 理兼橋梁製造部長 平成24年4月 取締役執行役員和歌山工場長代 理兼資材部長兼橋梁製造部長 平成25年6月 取締役執行役員和歌山工場長 (現)	(注)2	14

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	執行役員 技術本部長 兼設計部長	小林 雄紀	昭和28年9月8日生	昭和55年4月 当社入社 平成16年4月 技術本部設計部長 平成19年10月 技術本部長代理兼設計部長 平成20年4月 執行役員技術本部長兼設計部長 平成20年10月 執行役員技術本部長兼設計部長 兼技術提案室長 平成25年4月 執行役員技術本部長兼設計部長 平成25年6月 取締役執行役員技術本部長兼設計部長(現)	(注)2	1
常勤監査役		坂田 友良	昭和26年8月29日生	昭和49年3月 当社入社 平成17年6月 西部営業本部営業部部长 平成18年1月 営業本部西部営業部部长 平成21年4月 営業本部橋梁営業部部长 平成21年6月 常勤監査役(現)	(注)3	9
監査役		桑原 豊	昭和22年3月21日生	昭和50年4月 弁護士登録 昭和62年6月 当社監査役(現)	(注)4	1
監査役		吉竹 英之	昭和11年11月1日生	昭和30年4月 大阪国税局入局 昭和63年7月 明石税務署長 平成6年7月 南税務署長 平成7年9月 吉竹税理士事務所開設 平成17年6月 当社監査役(現)	(注)4	-
計						129

(注)1. 監査役 桑原豊、吉竹英之の両氏は、社外監査役であります。

2. 平成25年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

3. 平成25年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4. 平成24年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 当社は、業務執行に関する執行責任を明確にし、業務の迅速化、効率化を目的として、平成17年6月24日の定時株主総会終了後から執行役員制度を導入しております。

執行役員は9名で、上記取締役兼任の5名(谷俊寛、嶋崎哲太、梶義明、高橋裕、小林雄紀)及び以下の4名であります。

役名	職名	氏名
執行役員	工事本部長	瀧脇 敏幸
執行役員	和歌山工場長代理兼生産管理部長	今成 正一
執行役員	技術本部長代理兼技術提案室長	蔭山 昌弘
執行役員	鉄構本部長代理兼鉄構部長	坂根 潤一



全取締役と執行役員で構成する執行役員会議は、原則として毎月1回開催しており、各執行役員から現状報告が行われ、議論のうえ具体的な対策等が決定されております。

内部統制機能としては、内部監査室を設置しております。内部監査室は1名で構成されており、業務活動の効率性及び法令の遵守状況などについて、当社各部門に対し内部監査を実施し、監査結果を代表取締役に報告しております。また、改善すべき事項がある場合にはその指導も実施しております。

コンプライアンス（法令遵守）につきましては、従来のコンプライアンスへの体制不十分との反省に基づき、コンプライアンス室を設置し「入札談合防止マニュアル」を含む各種マニュアルの整備や、全社員を対象とした社内教育に取り組んでおります。また、コンプライアンス違反に対する懲戒内容を厳格化するとともに、社内通報制度の導入により、社内での業務運営上の問題点を吸い上げるなどを通じて、リスクマネジメントに努めております。

#### 八．責任限定契約の内容の概要

当社と各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

社外監査役との間における当該契約の損害賠償責任の限度額は、法令が定める金額としております。

#### 内部監査及び監査役監査の状況

##### イ．内部監査

代表取締役直轄部門としての内部監査室は1名で構成されており、業務活動の効率性及び法令の遵守状況などについて、当社各部門に対し内部監査を実施し、監査結果を代表取締役に報告しております。また、改善すべき事項がある場合にはその指導も実施しております。

##### ロ．監査役監査

当社の監査役監査の体制は、平成25年6月27日現在、3名の監査役を選任しており、うち2名が社外監査役であります。監査役は取締役会をはじめ重要な会議に出席するほか、重要な決裁書類を閲覧することで経営の監視を行っております。また、各監査役は、専門的な見地から取締役の意思決定及び業務執行の適法性について厳正な監査を行っております。さらに監査役会は、代表取締役と定期的に意見交換会を開催し、その活動を監査報告書にまとめ、取締役会において報告しております。

#### 八．内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

監査役と内部監査室は、定期的にまた必要に応じて監査連絡会議を開催し、情報交換・意見交換を実施しており、相互に連携し効率的な監査が実施できる体制を構築しております。

監査役・内部監査室と会計監査人は、定期的に連絡をとり、監査計画の説明や監査結果の報告を受け、それらについての意見交換を行っており、共有すべき事項について相互連携できる体制となっております。

#### 会計監査の状況

当社は、会計監査人に有限責任 あずさ監査法人を起用しております。同監査法人及び当社の監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別の利害関係はなく、また、同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。当社は同監査法人との間で、会社法監査と金融商品取引法監査について、監査契約を締結し、それに基づき報酬を支払っております。当期において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については下記のとおりであります。

##### ・業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 原田大輔 辰巳幸久

##### ・会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 5名 その他 7名

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。社外監査役の桑原豊氏は弁護士法人第一法律事務所所属の弁護士であります。社外監査役の吉竹英之氏は吉竹税理士事務所代表であり、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。なお、当社と社外監査役との間に特別の利害関係はありません。

当社は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針を定めておりませんが、選任にあたっては、東京証券取引所及び大阪証券取引所の独立役員に関する判断基準等を参考にしております。

当社は社外取締役を選任しておりませんが、戦略決定及び業務監督機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで、外部からの客観的、中立的な経営監視機能が十分に機能する体制であると認識しております。

#### 役員報酬等

##### イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	94,032	94,032	-	-	-	6
監査役 (社外監査役を除く。)	14,160	14,160	-	-	-	1
社外役員	13,773	13,773	-	-	-	2

##### ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

#### 株式の保有状況

##### イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

27銘柄 2,299,459千円

##### ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

###### 前事業年度

###### 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
住友不動産(株)	142,000	283,290	取引関係の強化
(株)奥村組	654,000	212,550	取引関係の強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	74,000	201,502	取引関係の強化
(株)紀陽ホールディングス	1,230,000	151,290	取引関係の強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	560,750	148,038	取引関係の強化
(株)駒井ハルテック	500,000	132,000	関係の維持
ジェイエフイーホールディングス(株)	66,500	118,237	取引関係の強化
(株)川金ホールディングス	395,700	117,127	取引関係の強化
小野薬品工業(株)	15,000	69,300	関係の維持
名糖産業(株)	62,000	64,480	関係の維持
新日本製鐵(株)	250,000	56,750	取引関係の強化
(株)池田泉州ホールディングス	370,000	42,550	取引関係の強化
(株)オオバ	60,000	9,540	関係の維持

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
住友不動産(株)	148,000	532,060	取引関係の強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	74,000	279,350	取引関係の強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	560,750	248,412	取引関係の強化
(株)奥村組	654,000	241,980	取引関係の強化
(株)紀陽ホールディングス	1,230,000	183,270	取引関係の強化
(株)川金ホールディングス	395,700	131,372	取引関係の強化
ジェイエフイーホールディングス(株)	66,500	117,505	取引関係の強化
(株)駒井ハルテック	500,000	117,000	関係の維持
小野薬品工業(株)	15,000	84,900	関係の維持
名糖産業(株)	62,000	61,380	関係の維持
新日鐵住金(株)	250,000	58,750	取引関係の強化
(株)池田泉州ホールディングス	74,000	39,220	取引関係の強化
(株)オオバ	60,000	12,420	関係の維持

八．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計 上額の合計額	貸借対照表計 上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	108	-	-	-	-
上記以外の株式	230,925	250,619	7,062	4,845	5,040 ( 3,527)

(注) 「評価損益の合計額」の( )は外書きで、当事業年度の減損処理額であります。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ．自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について、企業環境の変化に対応した機動的な資本施策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、市場取引等による自己株式の取得を行うことができる旨を定款で定めております。

ロ．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
24,000	-	24,000	-

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度及び当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度及び当事業年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

決定方針として社内で定めたものではありませんが、会計監査人から提示される監査計画を基に、監査時間等の妥当性を勘案のうえ決定しております。



## 第5【経理の状況】

### 1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）によって作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制の整備として、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、公益財団法人財務会計基準機構が開催する研修会等には積極的に参加しております。

1【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	2,934,419	2,849,408
受取手形	208,748	158,115
完成工事未収入金	9,176,975	6,175,083
有価証券	-	101,039
未成工事支出金	<sup>3</sup> 139,961	<sup>3</sup> 221,325
材料貯蔵品	5,287	10,175
前払費用	25,372	23,548
その他	159,460	162,014
貸倒引当金	29,190	20,390
流動資産合計	12,621,035	9,680,320
固定資産		
有形固定資産		
建物	<sup>1</sup> 2,733,270	<sup>1</sup> 2,735,826
減価償却累計額	1,936,450	1,983,814
建物(純額)	<sup>1</sup> 796,820	<sup>1</sup> 752,011
構築物	1,588,244	1,589,744
減価償却累計額	1,146,771	1,175,394
構築物(純額)	441,473	414,350
機械及び装置	3,548,574	3,857,509
減価償却累計額	3,107,048	3,204,174
機械及び装置(純額)	441,525	653,334
車両運搬具	56,902	58,302
減価償却累計額	53,915	54,947
車両運搬具(純額)	2,987	3,355
工具器具・備品	844,759	850,225
減価償却累計額	783,961	786,936
工具器具・備品(純額)	60,798	63,288
土地	<sup>1</sup> 5,641,056	<sup>1</sup> 5,641,056
建設仮勘定	59,731	-
有形固定資産合計	7,444,393	7,527,397
無形固定資産		
ソフトウェア	61,656	38,972
その他	9,050	9,808
無形固定資産合計	70,707	48,780
投資その他の資産		
投資有価証券	4,310,818	4,780,724
従業員に対する長期貸付金	80,559	68,720
保険積立金	570,847	449,822
その他	269,961	316,170
貸倒引当金	90,517	80,785
投資その他の資産合計	5,141,668	5,534,652
固定資産合計	12,656,768	13,110,830
資産合計	25,277,804	22,791,151

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	2 2,180,487	2 1,493,225
工事未払金	1,301,018	731,775
短期借入金	1 3,400,000	1 1,700,000
未払金	9,460	6,405
未払費用	77,607	67,003
未払法人税等	32,772	32,236
未成工事受入金	430,276	324,258
預り金	14,417	14,369
賞与引当金	140,020	138,010
工事損失引当金	3 405,363	3 385,973
流動負債合計	7,991,422	4,893,257
固定負債		
繰延税金負債	4,099	154,282
退職給付引当金	112,356	152,338
その他	24,873	24,873
固定負債合計	141,329	331,495
負債合計	8,132,751	5,224,752
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,178,712	5,178,712
資本剰余金		
資本準備金	4,608,706	4,608,706
資本剰余金合計	4,608,706	4,608,706
利益剰余金		
利益準備金	534,463	534,463
その他利益剰余金		
別途積立金	6,020,000	6,520,000
繰越利益剰余金	1,047,417	475,459
利益剰余金合計	7,601,880	7,529,923
自己株式	139,922	139,819
株主資本合計	17,249,375	17,177,522
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	104,322	388,876
評価・換算差額等合計	104,322	388,876
純資産合計	17,145,053	17,566,399
負債純資産合計	25,277,804	22,791,151

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
完成工事高	15,274,093	12,020,680
完成工事原価	1, 2 13,600,179	1, 2 10,962,863
完成工事総利益	1,673,913	1,057,817
販売費及び一般管理費		
役員報酬	119,724	121,965
従業員給料手当	478,467	476,691
賞与引当金繰入額	39,950	41,560
退職給付引当金繰入額	27,416	35,154
法定福利費	73,205	75,607
福利厚生費	17,323	12,830
修繕維持費	5,736	6,918
事務用品費	15,816	16,505
通信交通費	78,518	76,222
動力用水光熱費	5,670	5,688
広告宣伝費	2,186	863
交際費	15,362	13,202
地代家賃	74,320	73,320
減価償却費	15,360	15,842
租税公課	36,337	35,741
保険料	3,071	5,482
諸会費	13,016	12,922
設計料	6,326	4,680
貸倒引当金繰入額	3,000	-
雑費	125,576	115,884
販売費及び一般管理費合計	1, 1,156,387	1, 1,147,085
営業利益又は営業損失( )	517,526	89,268
営業外収益		
受取利息	3,050	2,555
有価証券利息	23,523	58,001
受取配当金	47,087	43,819
その他	44,133	58,134
営業外収益合計	117,795	162,511
営業外費用		
支払利息	22,186	17,135
支払保証料	10,687	6,814
投資有価証券評価損	-	15,462
和解金	10,806	-
その他	6,226	6,705
営業外費用合計	49,906	46,117
経常利益	585,414	27,125

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	-	51,664
投資有価証券償還益	196,500	-
特別利益合計	196,500	51,664
特別損失		
投資有価証券評価損	144,347	-
特別損失合計	144,347	-
税引前当期純利益	637,567	78,790
法人税、住民税及び事業税	18,500	18,400
法人税等調整額	-	21,899
法人税等合計	18,500	40,299
当期純利益	619,067	38,491

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		3,683,554	27.1	2,388,572	21.8
労務費		1,151,124	8.4	928,545	8.5
外注費		6,577,789	48.4	5,192,294	47.4
経費		2,623,528	19.3	2,472,840	22.5
(うち人件費)		(861,443)	(6.3)	(837,729)	(7.6)
工事損失引当金繰入額		435,816	3.2	19,390	0.2
完成工事原価		13,600,179	100.0	10,962,863	100.0

- (注) 1. 原価計算の方法は個別原価計算であって、直接材料費、直接労務費、外注費、直接経費については、個々の工事  
の実際支出額であり、製造間接費は予定配賦を行い、期末に原価差額を調整して実際原価に修正しておりま  
す。
2. 材料費には、主要材料の他、貯蔵品の当期消費分を含んでおります。

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	5,178,712	5,178,712
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,178,712	5,178,712
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	4,608,706	4,608,706
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	4,608,706	4,608,706
資本剰余金合計		
当期首残高	4,608,706	4,608,706
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	4,608,706	4,608,706
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	534,463	534,463
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	534,463	534,463
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	5,320,000	6,020,000
当期変動額		
別途積立金の積立	700,000	500,000
当期変動額合計	700,000	500,000
当期末残高	6,020,000	6,520,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,216,555	1,047,417
当期変動額		
別途積立金の積立	700,000	500,000
剰余金の配当	88,205	110,242
当期純利益	619,067	38,491
自己株式の処分	-	206
当期変動額合計	169,137	571,957
当期末残高	1,047,417	475,459

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	7,071,018	7,601,880
<b>当期変動額</b>		
別途積立金の積立	-	-
剰余金の配当	88,205	110,242
当期純利益	619,067	38,491
自己株式の処分	-	206
<b>当期変動額合計</b>	530,862	71,957
<b>当期末残高</b>	7,601,880	7,529,923
<b>自己株式</b>		
当期首残高	139,393	139,922
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	529	217
自己株式の処分	-	320
<b>当期変動額合計</b>	529	103
<b>当期末残高</b>	139,922	139,819
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	16,719,042	17,249,375
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	88,205	110,242
当期純利益	619,067	38,491
自己株式の取得	529	217
自己株式の処分	-	114
<b>当期変動額合計</b>	530,332	71,853
<b>当期末残高</b>	17,249,375	17,177,522
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	3,005	104,322
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	107,328	493,199
<b>当期変動額合計</b>	107,328	493,199
<b>当期末残高</b>	104,322	388,876
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	16,722,048	17,145,053
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	88,205	110,242
当期純利益	619,067	38,491
自己株式の取得	529	217
自己株式の処分	-	114
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	107,328	493,199
<b>当期変動額合計</b>	423,004	421,346
<b>当期末残高</b>	17,145,053	17,566,399



## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	637,567	78,790
減価償却費	217,992	232,977
貸倒引当金の増減額（ は減少）	3,640	10,682
賞与引当金の増減額（ は減少）	2,180	2,010
工事損失引当金の増減額（ は減少）	435,816	19,390
退職給付引当金の増減額（ は減少）	51,043	39,982
受取利息及び受取配当金	73,661	104,377
支払利息	22,186	17,135
投資有価証券売却損益（ は益）	8,544	62,747
投資有価証券償還損益（ は益）	196,500	-
投資有価証券評価損益（ は益）	144,347	15,462
売上債権の増減額（ は増加）	1,023,799	3,052,526
未成工事支出金の増減額（ は増加）	853	81,364
仕入債務の増減額（ は減少）	104,711	1,232,296
未成工事受入金の増減額（ は減少）	2,425	106,017
その他の流動資産の増減額（ は増加）	137,918	67,280
その他の流動負債の増減額（ は減少）	6,631	11,105
その他	7,819	79,644
小計	501,091	1,953,806
利息及び配当金の受取額	74,284	105,029
利息の支払額	22,378	15,465
法人税等の支払額	18,566	18,482
営業活動によるキャッシュ・フロー	467,751	2,024,888
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	440,657	252,077
投資有価証券の売却及び償還による収入	844,886	274,682
有形固定資産の取得による支出	133,815	315,638
無形固定資産の取得による支出	1,288	7,037
その他	1,600	400
投資活動によるキャッシュ・フロー	270,724	299,672
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	700,000	1,700,000
配当金の支払額	88,131	110,124
自己株式の取得による支出	529	217
自己株式の売却による収入	-	114
財務活動によるキャッシュ・フロー	611,339	1,810,226
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	414,313	85,010
現金及び現金同等物の期首残高	2,520,105	2,934,419
現金及び現金同等物の期末残高	2,934,419	2,849,408

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

未成工事支出金

個別法に基づく原価法

材料貯蔵品

移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

また、平成10年4月1日以降に取得した取得価額10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～50年
構築物	3～60年
機械及び装置	4～10年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、前1年間の賞与支給実績を基礎に将来支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

工事損失引当金

受注工事の損失発生に備えるため、当事業年度末における手持受注工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ金額を合理的に見積ることができる工事について、その損失見積額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

5. 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

## 6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## 7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

### (会計方針の変更)

#### (減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当事業年度の損益への影響は軽微であります。

### (未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

#### (1) 概要

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の見直し並びに開示の拡充

#### (2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定であります。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の見直しについては、平成27年3月期の期首より適用予定であります。

#### (3) 当該会計基準等の適用による影響

財務諸表作成時において財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

### (表示方法の変更)

#### (損益計算書)

前事業年度において区分掲記しておりました営業外収益の「スクラップ売却益」は、営業外収益の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、営業外収益の「スクラップ売却益」に表示していた12,941千円は、「その他」として組み替えております。

#### (キャッシュ・フロー計算書)

前事業年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「投資有価証券売却損益」は、金額の重要性が増したため、当事業年度より区分掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度のキャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた724千円は、「投資有価証券売却損益」8,544千円、「その他」7,819千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び対応債務

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
建物	584,760千円	550,063千円
土地	2,621,339千円	2,621,339千円
計	3,206,099千円	3,171,402千円
短期借入金	3,400,000千円	1,700,000千円

2 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当期の末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
支払手形	205,189千円	97,689千円

3 損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
未成工事支出金	7,306千円	86,561千円

(損益計算書関係)

1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	46,223千円	45,547千円

2 完成工事原価に含まれている工事損失引当金繰入額

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	435,816千円	19,390千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	22,375,865	-	-	22,375,865

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	324,201	2,772	-	326,973

(注) 株式数の増加2,772株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	44,103	2.0	平成23年3月31日	平成23年6月29日
平成23年11月4日 取締役会	普通株式	44,101	2.0	平成23年9月30日	平成23年12月2日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	66,146	利益剰余金	3.0	平成24年3月31日	平成24年6月28日

当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	22,375,865	-	-	22,375,865

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	326,973	1,335	730	327,578

(注) 1. 株式数の増加1,335株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 株式数の減少730株は、単元未満株式の売渡しによるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	66,146	3.0	平成24年3月31日	平成24年6月28日
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	44,095	2.0	平成24年9月30日	平成24年12月3日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	66,144	利益剰余金	3.0	平成25年3月31日	平成25年6月27日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金預金	2,934,419千円	2,849,408千円
現金及び現金同等物	2,934,419千円	2,849,408千円

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引は通常の売買取引に係る会計処理によっておりますが、当事業年度末現在、該当するリース契約はありません。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	84,161	33,640	50,521
車両運搬具	78,638	54,619	24,019
合計	162,800	88,259	74,540

(単位：千円)

	当事業年度(平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	84,161	40,600	43,561
車両運搬具	78,638	65,364	13,274
合計	162,800	105,964	56,836

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年内	17,704	20,234
1年超	56,836	36,601
合計	74,540	56,836

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
支払リース料	17,704	17,704
減価償却費相当額	17,704	17,704

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を残価保証額とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行等金融機関からの借入によっております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び完成工事未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は主として株式及び債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び工事未払金は、すべて4ヶ月以内の支払期日であります。借入金は、主に短期的運転資金の調達によるもので、借入期間はすべて6ヶ月以内であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、与信管理規程に従い、営業部門と経理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券として保有する債券は、有価証券取扱規程の内規により格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、運用状況を取締役に報告しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき、経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を一定水準に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前事業年度（平成24年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	2,934,419	2,934,419	-
(2) 受取手形	208,748	208,748	-
(3) 完成工事未収入金	9,176,975	9,176,975	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	4,118,870	4,118,870	-
資産計	16,439,014	16,439,014	-
(1) 支払手形	2,180,487	2,180,487	-
(2) 工事未払金	1,301,018	1,301,018	-
(3) 短期借入金	3,400,000	3,400,000	-
負債計	6,881,505	6,881,505	-



当事業年度（平成25年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	2,849,408	2,849,408	-
(2) 受取手形	158,115	158,115	-
(3) 完成工事未収入金	6,175,083	6,175,083	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	4,689,924	4,689,924	-
資産計	13,872,530	13,872,530	-
(1) 支払手形	1,493,225	1,493,225	-
(2) 工事未払金	731,775	731,775	-
(3) 短期借入金	1,700,000	1,700,000	-
負債計	3,925,001	3,925,001	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金預金、(2) 受取手形、(3) 完成工事未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券その他は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形、(2) 工事未払金、(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
非上場株式	191,947	191,839

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	2,934,419	-	-	-
受取手形	208,748	-	-	-
完成工事未収入金	9,176,975	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	200,000	-	-
(3) その他	-	50,000	1,500,000	-
合計	12,320,143	250,000	1,500,000	-

当事業年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	2,849,408	-	-	-
受取手形	158,115	-	-	-
完成工事未収入金	6,175,083	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	200,000	-	-
(3) その他	100,000	550,000	1,000,000	-
合計	9,282,606	750,000	1,000,000	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(平成24年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	562,371	372,830	189,540
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	201,920	200,000	1,920
	その他	500,600	500,000	600
	(3) その他	82,529	71,366	11,163
	小計	1,347,421	1,144,197	203,224
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,275,207	1,455,355	180,147
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	1,009,180	1,050,000	40,820
	(3) その他	487,061	569,541	82,479
	小計	2,771,449	3,074,896	303,447
合計		4,118,870	4,219,094	100,223

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 191,947千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成25年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,899,516	1,282,861	616,654
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	200,680	200,000	680
	その他	853,304	850,000	3,304
	(3) その他	151,868	110,394	41,474
	小計	3,105,368	2,443,256	662,112
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	458,722	550,054	91,331
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	788,680	800,000	11,320
	(3) その他	337,152	375,353	38,200
	小計	1,584,555	1,725,407	140,852
合計		4,689,924	4,168,663	521,260

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 191,839千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

２．売却したその他有価証券

前事業年度（自平成23年４月１日 至平成24年３月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	197,169	8,596	176
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	137,717	123	-
合計	334,886	8,720	176

当事業年度（自平成24年４月１日 至平成25年３月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	105,813	56,510	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	30,669	6,236	-
合計	136,482	62,747	-

３．減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について144,347千円、当事業年度において、有価証券について15,462千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

前事業年度（自平成23年４月１日 至 平成24年３月31日）及び当事業年度（自平成24年４月１日 至 平成25年３月31日）

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付年金制度及び退職一時金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	1,820,983	2,111,190
(2) 年金資産(千円)	1,635,659	1,863,710
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(千円)	185,324	247,480
(4) 未認識数理計算上の差異(千円)	158,828	221,399
(5) 未認識過去勤務債務(千円)	85,860	64,395
(6) 貸借対照表計上額純額 (3)+(4)+(5)(千円)	112,356	90,476
(7) 前払年金費用(千円)	-	61,862
(8) 退職給付引当金(6)-(7)(千円)	112,356	152,338

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
退職給付費用(千円)	110,804	141,621
(1) 勤務費用(千円)	89,486	97,852
(2) 利息費用(千円)	32,624	36,419
(3) 期待運用収益(千円)	21,829	24,534
(4) 過去勤務債務の費用処理額(千円)	21,465	21,465
(5) 数理計算上の差異の費用処理額(千円)	31,988	53,349

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 割引率

前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
2.00%	1.30%

(注) 当事業年度において、期首時点の計算において適用した割引率は2.00%でありましたが、期末時点において再検討を行った結果、1.30%に変更しております。

(2) 期待運用収益率

前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1.50%	1.50%

(3) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(4) 過去勤務債務の処理年数

5年

(5) 数理計算上の差異の処理年数

5年

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)及び当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	52,927千円	52,167千円
工事損失引当金	153,227	145,897
その他	29,450	25,752
評価性引当額	235,605	223,818
小計	-	-
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	39,774	53,927
長期未払金	8,805	8,805
投資有価証券等評価損	421,767	349,792
ゴルフ会員権評価損	39,647	36,815
その他有価証券評価差額金	39,578	21,214
繰越欠損金	2,207,950	1,553,334
その他	8,961	8,565
評価性引当額	2,766,484	2,032,456
小計	-	-
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	4,099	132,383
前払年金費用	-	21,899
小計	4,099	154,282
繰延税金負債合計	4,099	154,282
差引:繰延税金負債純額	4,099	154,282

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.4%	37.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6	7.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.4	10.0
住民税均等割	2.9	21.8
評価性引当額の増減	40.6	3.8
その他	-	1.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.9	51.1

(持分法損益等)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)及び当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、鋼構造物の設計、製作、施工及び販売を主事業としております。当社は製作する製品別の管理体制をしき、製品別に包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は生産・管理体制を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「橋梁事業」及び「鉄構事業」の2つを報告セグメントとしております。各セグメントの主な内容は以下のとおりであります。

橋梁事業

新設鋼橋の設計・製作・現場据付 既設橋梁維持補修工事の設計・製作・現場据付  
橋梁関連鋼構造物の設計・製作・現場据付 複合構造物の設計・製作・現場据付  
土木及び海洋関連鋼構造物の製作

鉄構事業

超高層ビル鉄骨等の製作・現場施工 大空間構造物の設計・製作・現場施工  
制震部材の製作

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	財務諸表 計上額 (注)2
	橋梁事業	鉄構事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,633,571	4,640,521	15,274,093	-	15,274,093
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	10,633,571	4,640,521	15,274,093	-	15,274,093
セグメント利益又は損失 ( )	938,751	421,225	517,526	-	517,526
セグメント資産	11,560,716	4,934,840	16,495,557	8,782,247	25,277,804
その他の項目					
減価償却費	191,348	26,643	217,992	-	217,992

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額8,782,247千円は、各報告セグメントに配分していない現金預金、投資有価証券等であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、損益計算書の営業利益と一致しております。

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	橋梁事業	鉄構事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,494,310	2,526,369	12,020,680	-	12,020,680
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	9,494,310	2,526,369	12,020,680	-	12,020,680
セグメント利益又は損失 ( )	552,864	642,132	89,268	-	89,268
セグメント資産	10,728,107	2,649,480	13,377,588	9,413,562	22,791,151
その他の項目 減価償却費	206,273	26,704	232,977	-	232,977

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額9,413,562千円は、各報告セグメントに配分していない現金預金、投資有価証券等であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の氏名又は名称	売上高	関連するセグメント名
国土交通省	3,793,855	橋梁事業
(株)大林組	2,074,050	鉄構事業



当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の氏名又は名称	売上高	関連するセグメント名
国土交通省	3,781,166	橋梁事業
中日本高速道路(株)	1,746,545	橋梁事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）及び当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

項目	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額(円)	777.59	796.72
1株当たり当期純利益金額(円)	28.07	1.74

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
当期純利益(千円)	619,067	38,491
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	619,067	38,491
期中平均株式数(株)	22,050,463	22,048,415

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)		
投資有価証券	その他有価証券	住友不動産(株)	148,000	532,060	
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	74,000	279,350	
		三井住友トラスト・ホールディングス(株)	560,750	248,412	
		(株)奥村組	654,000	241,980	
		(株)紀陽ホールディングス	1,230,000	183,270	
		(株)川金ホールディングス	395,700	131,372	
		ジェイエフイーホールディングス(株)	66,500	117,505	
		(株)駒井ハルテック	500,000	117,000	
		小野薬品工業(株)	15,000	84,900	
		日本電信電話(株)	17,300	71,016	
		名糖産業(株)	62,000	61,380	
		新日鐵住金(株)	250,000	58,750	
		関西国際空港(株)	1,140	57,000	
		(株)武蔵野銀行	14,500	53,505	
		その他49銘柄	586,461	312,577	
		計		4,575,351	2,550,079

【債券】

銘柄			券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)
有価証券	その他有価証券	クレジットリンク債	100,000	101,039
		小計	100,000	101,039
投資有価証券	その他有価証券	Mitsubishi Corp Fin債	500,000	501,600
		大和S M B C #681	500,000	491,950
		大和S M B C #1236	300,000	296,730
		ソフトバンク劣後保証付S F J優先出資証券	200,000	200,680
		大和S M B C #1643	200,000	200,540
		第10回ポーランド共和国円貨債券	50,000	50,125
		小計	1,750,000	1,741,625
計			1,850,000	1,842,664

【その他】

種類及び銘柄			投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)		
投資有価証券	その他有価証券	(投資信託受益証券) クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社 (C Aグリーンウェイ アービトラージ ジャパン ファンド2006-08)	10,000	82,900		
		D I A Mアセットマネジメント株式会社 (みずほエマージングボンドオープン)	97,761,267	79,685		
		大和証券投資信託委託株式会社 (ダイワ・グローバル債券ファンド)	100,000,000	73,550		
		その他5銘柄 (不動産投資信託証券)	120,012,000	174,178		
		M I Dリート投資法人	90	25,470		
		その他7銘柄	106	53,237		
				計	317,783,463	489,020

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,733,270	4,900	2,344	2,735,826	1,983,814	49,579	752,011
構築物	1,588,244	1,500	-	1,589,744	1,175,394	28,622	414,350
機械及び装置	3,548,574	321,141	12,206	3,857,509	3,204,174	108,803	653,334
車両運搬具	56,902	1,400	-	58,302	54,947	1,031	3,355
工具器具・備品	844,759	19,046	13,580	850,225	786,936	15,975	63,288
土地	5,641,056	-	-	5,641,056	-	-	5,641,056
建設仮勘定	59,731	7,621	67,352	-	-	-	-
有形固定資産計	14,472,540	355,609	95,484	14,732,665	7,205,268	204,012	7,527,397
無形固定資産							
ソフトウェア	-	-	-	131,811	92,839	28,922	38,972
その他	-	-	-	10,007	199	41	9,808
無形固定資産計	-	-	-	141,818	93,038	28,964	48,780
長期前払費用	22,610	5,097	5,081	22,627	685	457	21,941
繰延資産							
-	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置            工事機材の自社製造            264,973千円

2. 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	3,400,000	1,700,000	1.2	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	3,400,000	1,700,000	-	-

(注) 平均利率を算定する際の利率及び借入金等残高は、期末のものを用いております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(注)1	119,707	18,700	7,600	29,632	101,175
賞与引当金	140,020	138,010	140,020	-	138,010
工事損失引当金(注)2	405,363	385,973	192,631	212,731	385,973

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額その他は、一般債権の貸倒実績率による洗替額(27,500千円)及び回収(2,132千円)であります。

2. 工事損失引当金の当期減少額その他は、洗替及び工事利益率の改善による取崩であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ 現金預金

区分	金額(千円)
現金	4,242
預金の種類	
当座預金	1,702,181
普通預金	1,141,855
別段預金	1,129
計	2,845,166
合計	2,849,408

ロ 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
佐田建設(株)	132,520
ショーボンド建設(株)	13,334
(株)川金コアテック	9,656
小野建設(株)	2,604
合計	158,115

(ロ) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年4月 満期	97,290
5月 "	44,885
6月 "	-
7月 "	15,938
合計	158,115

八 完成工事未収入金

(イ) 相手先別内訳

区分	金額 (千円)	主な相手先及び金額(千円)					
官公庁	3,621,692	国土交通省	2,652,338	大阪府	391,062	群馬県	282,373
公社	-						
その他	2,553,390	(株)大林組	917,325	中日本高速 道路(株)	844,762	大成建設(株)	293,967
合計	6,175,083						

(ロ) 完成工事未収入金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 365
9,176,975	12,621,714	15,623,607	6,175,083	71.7	222.0

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

二 未成工事支出金

区分	金額(千円)
橋梁(道路橋・鉄道橋)	119,685
鉄構(ビル・工場・体育館等鉄骨)	101,640
合計	221,325

ホ 材料貯蔵品

区分	金額(千円)
材料(鋼板)	8,755
貯蔵品(機械部品)	1,420
合計	10,175



負債の部

イ 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	249,189
(株)オーテック	100,762
川田工業(株)	91,350
(株)I H I インフラシステム	90,050
(株)平野鐵工所	89,244
その他	872,630
合計	1,493,225

(ロ) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年4月 満期	456,143
5月 "	355,401
6月 "	247,319
7月 "	434,360
合計	1,493,225

ロ 工事未払金

相手先	金額(千円)
伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	157,434
山口建設工業(株)	45,150
(株)オーテック	41,842
(株)ヒロキコーポレーション	34,755
三建塗装工業(株)	23,824
その他	428,769
合計	731,775

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
完成工事高(千円)	3,747,846	6,244,114	9,280,362	12,020,680
税引前四半期(当期)純利益金額又は税引前四半期純損失金額( )(千円)	133,055	129,394	51,003	78,790
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額( )(千円)	124,307	138,142	64,051	38,491
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	5.63	6.26	2.90	1.74

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	5.63	11.90	3.36	4.65

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜4丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所 買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 公告掲載URL <a href="http://www.takadakiko.com/">http://www.takadakiko.com/</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定により請求する権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の買増し請求をする権利以外の権利を行使することができません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第83期）（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月28日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年6月28日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

（第84期第1四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月10日関東財務局長に提出。

（第84期第2四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月9日関東財務局長に提出。

（第84期第3四半期）（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）平成25年2月13日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

平成24年6月29日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6月26日

高田機工株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 原田 大輔 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 辰巳 幸久 印  
業務執行社員

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている高田機工株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第84期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、高田機工株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、高田機工株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、高田機工株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 . 上記は、当社（有価証券報告書提出会社）が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
  - 2 . 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。